

令和六年

# 七宝会

第三回

# 公演

夫の目見を戴き  
この竹衣を着しつづ  
常にはまぢらしこの鼓の  
涙もせずまぢもせず

いかに行者  
はや降り給へ  
かへらで  
不覚し給ふなよ

最上段のアンケル下高の能  
役者をなさに

七宝会

◆6月8日(土) 15時開演

◆枚方市総合文化芸術センター本館

関西医大小ホール

能 「梅枝」 石黒 実都

狂言 「鐘の音」 小笠原山祠

能 「葵上」 辰巳大二郎

【番組】

能 「梅 枝」

富士の妻 石黒 実都 大鼓大村 滋二  
 権 僧福王 和幸 小鼓久田陽春子

逆 僧広谷 和夫 逆 森田 啓子

從 僧矢野 昌平

所の者 小笠原由禰

狂言 「鐘の音」

太郎冠者 小笠原由禰

主人 泉 慎也

後見 安田 典幸

龍 「葵 上」

六条御息所の御者 辰巳大二郎

大鼓 守家 由訓

大鼓 上田 悟

照日巫女 辰巳 和磨

小鼓 清水 皓祐

笛 貞光 訓義

横川小笠 福王 和幸

朱雀院の臣下 矢野 昌平

左大臣の從臣 泉 慎也

日時 令和六年六月八日(土) 十五時開演

会場 枚方市総合文化芸術センター 本館 関西医大小ホール

料金 指定席4,500円 自由席3,500円 学生2,000円

◆スマホde解説

「兼我財団」様の支援事業として、お客様ご自身のスマホをお使いいただき、ご自身のイヤホンで解説をお聴きいただけるサービス提供がはまりました。ご希望の方はスマホとイヤホンをご持参のうえ、ご体験くださいませ。

【解説】

◇能 「梅 枝」 うめがえ

根津国、住吉の里に到った旅の僧は、突然の雨にあい、宿を借りようと一軒の庵を訪れる。宿を貸した、庵の女。見れば庵内には、簪薬に用いる太鼓と腰束が飾られていた。この品は、昔の富士という美人の形見。富士は、鎌倉する別の美人に恨まれ殺害されてしまう。

その後、夫を慕った富士の妻は、いつも形見の太鼓を打って心を慰めたのだった。そう語ると、女は、わが執心を救ってくれと古い道して姿を消す。実は彼女こそ、富士の妻の霊であった。

一行が供養していると、形見の腰束を身にまとった妻の幽霊が現れた。心中を吐露して懺悔した彼女は、一行に勧められ、夫への思いの丈を託して舞を舞う。やがて、彼女は自らの妄執を語り尽くすと、晩の暗がりの中へ消えてゆくのだった。

◇狂言 「鐘の音」 かねのね

主人は召使い(太郎冠者)に、鎌倉へ行つて「かねのね」を聞いて来い、と云い付け使いにします。召使いは鎌倉の寺々を巡り、「鐘の音」を聞き比べて報告しますが、主人は奥めるどころか怒りだし、その訳を尋ねてみると……

◇能 「葵 上」 あおいのうえ

光源氏の妻となった左大臣の娘葵上は、物の怪に悩まされていた。物の怪の正体を知るべく、院の臣下に命じられて口寄せを行う照日巫女。すると、一人の高貴な女性の姿が現れた。かつて葵上に辱めを受けた六条御息所の怨霊だと名乗り、自らの抱える辛い思いを吐露しはじめた彼女。次第に感情の昂ぶってきた彼女は、葵上の病床に迫って責め苛む。御息所は、葵上を冥府へ連れ去ろうと呪いの言葉を吐き捨てる。そのまま姿を消すのだった。

怨霊退治のため、比叡山で修行する修験者を急いで呼び出した臣下。修験者が祈禱をしていると、そこへ鬼女の姿となった御息所の怨霊が現れた。なおも葵上を苦しめようとする彼女。しかしやがて、彼女は法力の前に力尽き、成仏を遂げてゆくのだった。

◆令和六年 七宝会年間会員について

年会費 15,000円

●年間5公演のうち、普及公演を除く4公演の指定席代金18,000円を15,000円でご提供いたします。

●発売・予約開始は、会員は60日前(一般は50日前より)。  
 ●年度途中からでも会員に申し込みいただけます。

宝生流 七宝会

〒572-0009 大阪府寝屋川市末広町1-8 辰巳方

TEL 072-831-3206  
 FAX 072-832-5115

会場のご案内



枚方市総合文化芸術センター 本館  
 関西医大小ホール  
 大阪府枚方市南郷1-1-50

京阪電車 枚方市駅から徒歩約5分